

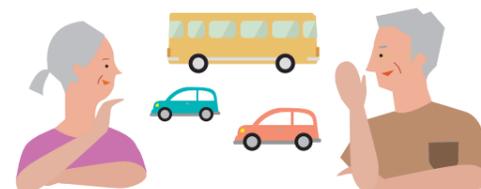
# 高齢者のための交通環境整備に関する施策提案

情報システム工学科 小林 大二

運転免許を返納する高齢者が全国的に増加しています。しかし、免許証を返納したことで、外出する機会が失われ、生活習慣の変化による認知機能や体力の低下を招く例も少なくありません。千歳市介護予防センターでは、高齢者の体力や認知機能の維持・増進を目的として、市内の各地域で介護予防教室を展開し、多くの参加者が積極的に活動されています。

社会全体の交通安全の向上に資する目的で、自主的に免許を返納した高齢者は、車両を運転できる権利を放棄したことになります。が、免許の返納によって不利益を被らないように公共交通の環境を整備することが、自治体に求められていると思います。しかし、自治体が高齢者の一人一人のニーズを集め、それらを踏まえて政策を立案することは難しいのが現実です。

そこで本研究では、千歳市に住む高齢者の方々の交通政策に対する声を、「エスノグラフィー」と呼ばれる方法で集め、声に含まれる一つ一つの言葉を分析し総合することで千歳市の交通政策への提言を纏めました。



## エスノグラフィー調査

エスノグラフィー調査とは、地域のコミュニティの中に身を置きながら、聞き取り調査や観察を行うことによって、対象者の意識や意見などを収集していく方法です。

昨年度は、約半年にわたり、介護予防教室に参加されている65～80歳代の高齢者37人および高齢者ご夫妻3組を対象に、学生2名がエスノグラフィー調査を実施しました。この調査では、高齢者の外出に関係する身体的な機能に関すること、さらに、路線バスに対する意見を伺い、すべての発話内容を地域ごとに分析しました。



図1:エスノグラフィー調査の様子

## 交通政策への提案

ご意見をいただいた皆様の声から言葉を拾い出して分析した結果、お住まいの地域によって、周囲の交通環境や公共交通へのニーズが異なることが明らかとなりました。駅周辺の地域と郊外の地域とでは、バスに対するニーズが全く異なります。また、住宅街では、「道路を横断しようとしても、誰も車を停めてくれない」、「段差があって歩きづらい」など、徒歩での移動にも難儀していることが分かりました。

さらに、分析したデータをISM (Interpretive Structural Modeling) という手法によって一般化した結果、公共交通である路線バスに対しては、バスに乗ったり降りたりするのに時間が掛かることを懸念し、「周りの若い人達に迷惑を掛けたくない」といった気持ちから、バスの利用をためらっていることなどが分かりました。

今回の研究の成果から分かったこと、および、課題解決のための提案については、千歳市企画部の職員の皆様に、市役所で発表する場を設けていただきましたので、学生よりご報告いたしました。

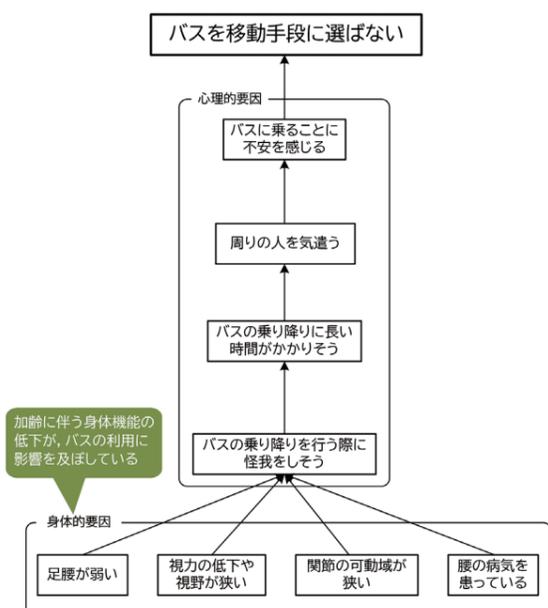


図2:高齢者特有の要因の構造図①

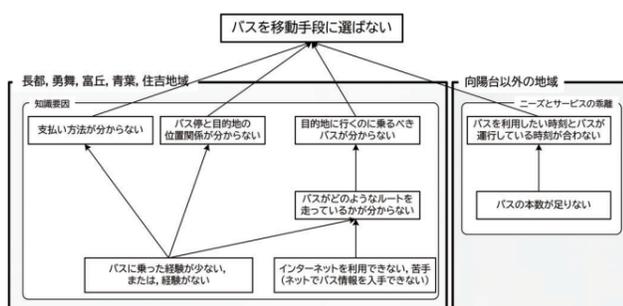


図3:高齢者特有の要因の構造図②



図4:北海道新聞に掲載された記事